

私たち推進員連絡協議会としてできることは、地区の皆様からの具体的なご意見や提言、特に、態様としての声なき声をしっかりと把握すること、そして、それへの、必要な学び、の契機を各行政に、あるいは皆さま個々に提供させていただくことです。



私としてやらなくてはならないことは、推進員が、それぞれの個性や力量を遺憾なく発揮できるように、その支援に努めていくことです。
健康福祉、そして防災を学ぶこと。耳学問だとしても、大災害に見舞われなかつた地域にとつて、むしろ今、喫緊の課題として、取り組まなくてはならないと思っています。

海拔九十一メートル

豊城町 眞下 富夫

豊城町には海拔九十一メートルのはちす権現山があります。はちす権現山は赤城火山の山体崩壊で起きた岩屑雪崩で、約十五万年前に出来たと考えられています。

山頂には、伊勢崎市指定重要文化財八寸権現山の宝塔があります。この宝塔は、古くから八寸権現山の頂上付近にあり、粕川流域に多く分布する赤城塔と呼ばれ、十四世紀後半南北朝時代の造立と考えられています。

権現山周辺には多くの古墳があり、権現山北古墳群・権現山古墳群・権現山南古墳群百二十基があったとされています。権現山遺跡は、相沢忠洋氏により確認された旧石器時代の貴重な遺跡であり、権現山南公園には、相澤忠洋氏発掘により、旧石器が一九五〇年十月、権現山南住宅造成事業の時に発見されている。また、権現山周辺では、L型古墳・埴輪さしば・埴輪国指定重要文化財女子立像。権現山東北には、古墳上に権現山山頂にある宝塔と似た小型の宝塔、康暦元年建立とある石材質・形状・工法はほとんど同じとのこと。

旧暦九月十九日蓮神社の大祭には、年々神主がこの宝塔に詣でていたとのこと。頂上直下には、室町時代の元亮元年（一三二二年）熊野権現若一王子を勧請して始まる、若一王子神社明治時代に入り、明治七年（一八七四年）若一王子神社から、村社熊野神社と改称。この時、祭神を櫛御氣野命・豊城入彦命とする明治四一年（一九〇八年）

村中の神社を合祀し、神社名を蓮神社と改称。菅原神社字長溝・現神谷熊野神社字宿裏・現神谷下諏訪神社字諏訪台・現下諏訪上諏訪神社字小斎・現上諏訪火雷神神社字上サ・現豊城八坂神社字八坂・現豊城山神社字権現・現豊城。

豊城町の町名の由来も、崇神天皇の皇子「豊城入彦命（とよきいりびこのみこと）」より頂いた町名と聞いています。

東参道石階段横には、災難除け大参講三峯神社の祠が解体修復された。信仰心のある方のご厚情のことと思います。東山麓には地元信仰の祠毘沙門堂があり、多聞天が祭られている降雹除けの神様と信仰されている。

はちす権現山は、現在、伊勢崎市公園緑地課による管理保全が行われています。

はちす権現山北方面に、原之城遺跡があります。六世紀中頃の、豪族居館跡東西約百十メートル、南北約百七十メートルでほぼ長方形、幅約二十メートルの濠がめぐらされており、全体の面積は三万平方メートルを超え、同様の遺跡では最大級の遺跡です。

居館内部北西部を溝で区画し、掘立柱建物の倉庫群溝の南側中央には、四面庇の掘立柱、建物付近には竪穴住居群、北東隅からは祭祀跡が、東辺中央南からは楕円形の埴輪土製品等の出土祭祀が行われていた。当時の豪族の暮らしがそのように伝えられています。

はちす権現山公園には、赤松の原木が三百四本、春の訪れを知らせてくれるカタクリの花、赤松と共に桜の花がはちす権現山を彩り、心和ましてくる。東参道付近の檜の原木、夏の涼の取れるところだ。



山頂付近には野鳥観察小屋があり、離れたところに水をたくわえ、天然石を盃状に彫り込んだ天然石がある。小鳥の水飲みや沐浴に役立つている。

訪れる鳥は、オオタカ・アオゲラ・コゲラ・カケス・ヤマガラ・シジュウガラ・アオジ・ヒガラ・アトリ・ツグミ・ビンズイ・ジヨウビタキ・シロハラ・シメ・メジロ・ウグイス・エナガ・ヒヨドリ・ガビチョウ・スズメ等。鳥たちが水飲み沐浴に寄ってくれます。水は、有志の人達により補給されています。



はちす権現山公園には数本の遊歩道があり、散策をする人やランニングをする人、八寸の会や殖蓮中の生徒さんが里山をつくり、カタクリ・ユリ・アマドコロを植栽し彩りを添えています。

防災講座の講師をしてみたい

本関町 千吉良 高志

講座を始める前に、参加者の方々に「どのような過去の災害事例を知っていますか」と問いかけても、数年前の事例を話さない（忘れていたのかも？）。そこで、こんな事がありましたよねと話しかけると、「あった」「この時はこうだったよ」などと応じてもらえることが多く、それぞれの経